

番号	分野別	資料の概要
5	事業手法	設計・施工分離発注方式のメリット・デメリット

1 メリット

- (1) 発注者の要望や考え方の反映については、設計仕様を確認しながら発注図書を作成する（仕様発注）ため、発注者が求める仕様を確保しやすい。
- (2) 施工だけに対応できる工事者数が多くなるので、これらの工事事業者の競争を通じて、工事価格の低減が図れる可能性が高い。
- (3) 工区・工種別の分離発注ができ、市内中小企業の参画がしやすい。なお、WTO政府調達協定対象工事の場合、市内企業について限定または優先した工事発注はできない。

2 デメリット

- (1) 設計・施工を別々の企業へ発注するため、連携した技術の採用やコスト縮減は難しい面がある。
- (2) 施工企業独自の技術やノウハウを設計、施工に活かさない。